

# マクロ経済学 期末試験

2015年2月9日実施

## 問題1 (10点)

「クラウドファンディングアウト」を説明せよ。

## 問題2 (10点)

所得	200	300	400	500	600	700
消費	140	180	220	260	300	340

消費が所得の1次関数で表されるとすると、どのような式になるか。所得を  $Y$ 、消費を  $C$  とする。

- ①  $C=30+0.4Y$
- ②  $C=60+0.4Y$
- ③  $C=30+0.6Y$
- ④  $C=60+0.6Y$

## 問題3 (10点)

表は、ある企業の投資プロジェクト案である。投資家はケインズの投資決定論に基づき、これらのプロジェクト案を実施するかどうか判断する場合、次の記述のうち妥当なものはどれか。ただし、利率は10%とする。

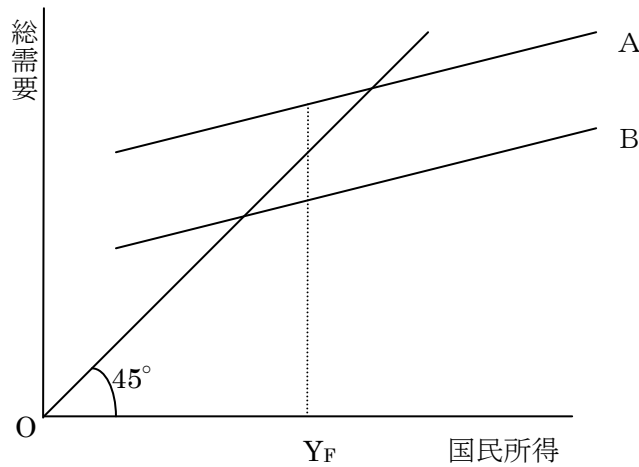
プロジェクト案	設備の利用期間	設備の費用	毎期の予想収益
A案	2年	300億円	175億円
B案	3年	400億円	160億円
C案	2年	500億円	290億円

- 1 A案は、B案およびC案いずれも実施する。
- 2 A案およびC案は実施し、B案は実施しない。
- 3 B案は実施し、A案およびC案は実施しない。
- 4 B案およびC案は実施し、A案は実施しない。
- 5 C案は実施し、A案およびB案は実施しない。

【国税専門官・平成4年度】

問題4 (10点)

総需要曲線A, Bと総供給曲線(45度線)が図のように示され,  $Y_F$ を完全雇用国民所得水準とすると, 次の記述のうち妥当なものはどれか。



1. 総需要曲線がAのとき, 完全雇用国民所得水準実現のためには, 減税などの拡張的財政政策がとられる必要がある。
2. 総需要曲線がAのとき, 完全雇用国民所得を超えて, 国民所得が増大していく。
3. 総需要曲線がBのとき, デフレ・ギャップが生じており, 失業が存在している。
4. 総需要曲線がBのとき, 供給が完全雇用国民所得水準に追いつけないために, コスト・プッシュ・インフレーションが生じている。
5. 総需要曲線がBのとき, 中央銀行は通貨供給量を増やして金融引締めを行うと考えられる。

### 問題5 (10点)

ある経済が不完全雇用状態にあるとする。この経済の IS-LM 曲線に関する記述のうち、妥当なものはどれか。

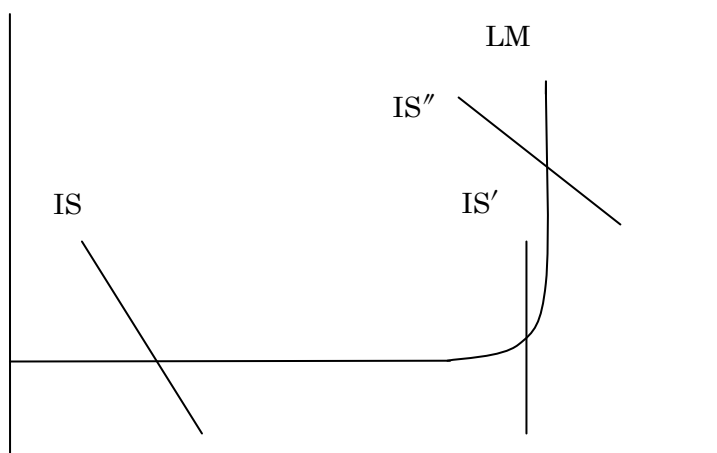
ただし、特段の条件設定がない場合には、IS 曲線は右下がり、LM 曲線は右上がりであるものとする。

- 1 投資の利子弾力性がゼロである場合、IS 曲線は水平になる。
- 2 投資の利子弾力性が無限大である場合、IS 曲線は垂直になる。
- 3 貨幣需要の利子弾力性がゼロである場合、LM 曲線は水平になる。
- 4 政府が財政支出を増加した場合、均衡利子率は低下する。
- 5 流動性のわなにおいては、貨幣供給量が増加しても均衡利子率は変わらない。

【国家Ⅱ種・平成10年度】

### 問題6 (10点)

下図は、IS-LM 分析を示したものであるが、この図に関する下の記述のうち、妥当なものはどれか。



- 1 図の IS 曲線、LM 曲線が成り立っている場合、貨幣供給量を増加させると LM 曲線が左方に移動するので、利子率の均衡水準を変化させる。
- 2 IS'' 曲線と LM 曲線の関係は、政府支出を増加させても、金利が上昇するだけで、均衡国民所得は変化しない状態である。
- 3 IS 曲線と LM 曲線の関係は、長期の不況時などに企業家の将来予想が極めて悲観的となるために投資が利子率に反応しなくなり、金融政策による利子率操作が所得水準の上昇に有効でない状況を示している。
- 4 IS' 曲線と LM 曲線の関係は、利子率がかなり低い水準のときに貨幣需要が増大し利子率に関して無限大となり、貨幣供給量が増加しても均衡利子率は低下しなくなる状況を示している。
- 5 IS 曲線と LM 曲線の関係は、利子率の変化が貨幣需要に影響を及ぼさないときには、

政府支出を増加させても、利子率の上昇を引き起こすだけで国民所得を増加させる事は出来ない状況を示している。

【地方上級・平成9年度】

問題7 (10点)

マクロ経済モデルが次のように与えられるとき以下の設問に答えなさい。

消費関数  $C=60+0.5Y$

投資関数  $I=100-10i$

貨幣需要関数  $L=0.2Y+300-5i$

貨幣供給量  $M=400$

均衡国民所得  $Y_0$  はいくらになるか。

【国家Ⅱ種・平成7年度】

- ①200
- ②300
- ③400
- ④500
- ⑤600

問題8

ある国の経済が次のモデルで示されている。

$Y=C+I$

$C=60+0.5Y$

$I=100-r$

$L=100+0.5Y-r$

$M=100$

$\left( \begin{array}{l} Y: \text{国民所得}, C: \text{消費}, I: \text{投資} \\ r: \text{利子率}, L: \text{実質貨幣需要} \\ M: \text{名目貨幣供給} \end{array} \right)$

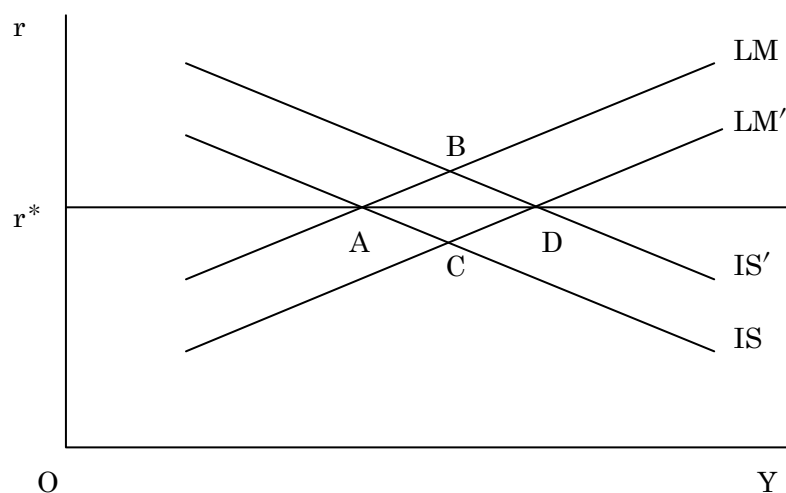
物価水準  $P$  が伸縮的であるとき、この経済の総需要曲線は次のうちどれか。

- 1  $P=200/(Y-20)$
- 2  $P=100/(Y-20)$
- 3  $P=200/(Y-40)$
- 4  $P=100/(Y-40)$
- 5  $P=100/(Y-60)$

【国税専門官・平成8年度】

### 問題9 (10点)

図は、資本移動が完全な場合におけるマンデル＝フレミング・モデル(小国モデル)を表したものである。世界市場において金利水準が  $r^*$  に決まっているとすると、当初 A 点で均衡していたこの国の財政政策と金融政策に関する次の記述のうち、妥当なものはどれか。ただし、 $Y$  は GDP であり、 $r$  は金利である。また、物価水準は一定であるものとする。



- 1 固定相場制においては、財政拡大により  $IS$  曲線を  $IS'$  にシフトした場合の長期的に均衡点は A 点である。
- 2 固定相場制においては、財政拡大により  $IS$  曲線を  $IS'$  にシフトした場合の長期的に均衡点は B 点である。
- 3 固定相場制においては、金融緩和により  $LM$  曲線を  $LM'$  にシフトした場合の長期的に均衡点は C 点である。
- 4 変動相場制においては、財政拡大により  $IS$  曲線を  $IS'$  にシフトした場合の長期的に均衡点は D 点である。
- 5 変動相場制においては、金融緩和により  $LM$  曲線を  $LM'$  にシフトした場合の長期的に均衡点は D 点である。

【国家Ⅱ種・平成10年度】

### 問題10 (10点、無記入は0点)

この授業に関する感想を書いてください。